

年末手当 第2回交渉 11月13日 会社より現状認識が示される

組合

3. 5箇月支払う体力は十分ある！
6期連続の増収増益はグループ会社を含めた労苦
あってこそ、全社員への還元を！

会社

収益の確保やコスト削減に向けた社員の努力には
敬意を表したい。また、収益は、株主・お客さま・社員に対し
バランスを見ながら還元していきたい。

< 会社の基本的なスタンス >

大局的な経営の観点から業績動向を踏まえ、総合的に判断する必要がある。経営環境の変化や平成24年度に実施した人事・賃金制度の見直し、将来の経営に影響がある賃金改善を4期連続で実施。今年度においては、管理手当等および扶養手当を見直し、期末手当の算出基礎である基準内賃金が大幅に増加している。当社は、お客さまにご利用いただくことで鉄道事業を運営している高い公共性を有した企業、世間に突出感を与えることのないよう留意すべき。

安全や設備に対する投資も必要だが、

JR東日本の労働分配率にしっかりと目を向け、
今こそ人への投資を！